

我在昆明

9月6日(月)、午後10時過ぎ。

韓国の仁川空港を経由して雲南省都の昆明(クンミン)市に着いた。何度も訪れている街だが、今回は見慣れたはずの景色がやけに新鮮に輝いて見えた。多分、観光客としてではなく、雲南師範大学の中国語研修所(正式には「漢語教育学院」)に留学し、実地生活をする一人旅ということとで、少し緊張していたせいなのかもしれない。空港に日本・雲南聯誼協会昆明事務所の林(リン)さんが迎えにきてくれていて、正直ホッとした。

昨年、恵蘭理事長に留学の話をしたとき、「是非、行きなさい。協会がバックアップするから」と背中を押してくれ、スタッフの面々も心良くうなづいてくれた。その優しい、否、甘い言葉に乗って、昆明にやってきたのだが、後日、「昆明支部長」という名刺まで準備してくれていて、これはつまり、「昆明に行ったら協会の手伝いもちゃんとなさい」ということなのだろうと有り難く感謝している。今回の昆明留学にあたっては、雲南協会の存在がなければ踏み出す勇気はなかっただろう。

9月7日(火)。

昆明事務所の王(ワン)さんに案内をしてもらって、雲南師範大学を訪問。6月に下見をして漢語教育学院の場所も学務課の部屋もわかっていたので、迷うことなく学務課に着いた。早速、

入学の手続きを行った。まずは電子入学申請書に必要な事項をインプットし、それを出力したものを学務課に提出。次に、学費6500円を会計課に納入。その領収書とともに写真2枚を再び学務課に提出し、別室で3冊の教科書を受け取って、入学手続きは完了した。案外と簡単に留学生になれてしまった。

ところが、最大の問題が残っていた。ビザの延長である。この時点で、私は「ビザなしの観光入国」の立場にあつて、最大15日間の滞在しか認められていない。入学は割と簡単に認められたが、留学生ビザが認められなければ、19日には大韓航空機で日本へ帰らなければならないことになる。6500円が無駄になってしまふ。

留学生ビザ申請の期限は13日。学務課からは、10日にパスポートにビザ延長申請書と「公安警察」の居住証明書を揃えて提出しろという指示だった。当面、格安のホテル暮らしをしながらと少々のはり構えていたが、急遽、住居を確定しなければならなかった。

9月8日(水)。

昆明事務所で林さんがインターネットを使ってあちらこちらとアパートの空き物件情報を検索してくれて、通学にも事務所に行くにも便利で、繁華街に近く、セキュリティが確保された物件を探してくれた。その中から、市中心部の「玉善街」

に2カ所の候補物件を見つけてくれたので、とりあえず見に行った。

いずれも「公寓酒店」と呼ばれるもので、「公寓」はマンション、「酒店」はホテルの意味。ホテルの1室をアパートとして長期契約で借りることができ、ホテルと同じ設備・サービスを受けることができ、1泊当たりの宿泊料金は超格安になる。食事は外食である。

紹介された物件はどちらも新築中のもので、場所の優位性もあって、いずれも一ヶ月2300円から2500円という家賃だった。こちらの予算は1000円以内。あつてなく諦めた。聞くところによると、この1年で昆明市内の家賃は急騰しているらしい。2年前の家賃相場は800円から1000円くらいだったが、新築物件が続々とできつつある現在、1500円から2000円になつていそう。

余談だが、大学の近くに「翠湖公園」という小さな池があり、そのそばに「青雲街」という通りがある。道路の両側に並木が茂り、ちよつと古そうだが洒落た高層住宅が並んでいて、一見、東京の南青山のような風情を感じさせる。日本式に例えると「文教地区」とでも言おうか、落ち着いた、清潔そうな、品のある街だ。後日、この不動産屋の物件情報を覗いたら、賃貸マンションの家賃は3000円以上だった。因に、昆明市内のマンションの一般的な販売価格は、中古の2000万から8000万から1500万円、新築は2000万円以上する。もちろん、立地条件によって価格が変わるのは日本と同じだ。1元13円で計算すると大体の値段が推測できる。

話を元に戻そう。アパート探しに頓挫して、王さんともども意気消沈して昆明事務所に戻ると、林さんが事務所のすぐそばに1件、出物を見つけたと言う。夕方、大家さんが部屋を見せてくれるというので、林さんに伴われて行って見た。そこは、事務所から徒歩5分ほどの場所で、目下、建築中のマンション団地の一角だった。部屋に入った途端に気に入った。小さなキッチン



「上東城」という厳めし名前がついているが、全体で15棟ほどの高層マンション団地。以前は「上東村」という農民階級の集落だった。写真の建物の最上階の1203号室がマイホーム。

とシャワーと水洗トイレを備えた、小奇麗な1ルームだった。前住者が冷蔵庫と洗濯機を残してくれていたのも、自炊生活が可能だった。インターネットもすぐに使えると言う。但し、家賃は1ヶ月1600円。6ヶ月契約で全額前金払いが条件だった。

予算を大幅に越えていたが、滞在中の生活費を節約することにして、前金7000円を支払って契約した。こうして「昆明市上東城区13幢12楼03室」が私の住居となり、生活の拠点を確保することができた。

9月9日(木)。

朝、ホテルを引き払い、アパートへ引っ越し。荷物を部屋に投げ入れて、賃貸契約書を携えて上東地区公安警察へ居住登録へ行く。居住証明書を公印をもらい、その足で大学の学務課へ行き、留学ビザの発行申請書を提出。なんとか間に合わせることができた。7日に入学手続きをしたので、早速、8日から授業を受けようと思っていたが、結局、この週の授業に出席する余裕はなかった。

9月10日(金)〜12日(日)。

授業は月曜日から木曜日の4日間なので、週末は休みである。そこでこの3日間生活体制を整えることにして、とりあえず部屋を掃除。午後か



クラスメートは6人。右からナシアさん(ロシア)、ティンさん(ベトナム)、メラミさん(ベトナム)、王寧(ワン・ニン)先生、ラニイさん(ベトナム)、バドさん(ポーランド)、ディエンさん(ベトナム)。みんな若く、それぞれに未来を夢見ている。

ら自炊に必要な最低限の道具を買い揃えることにした。結構使い道のありそうな鍋が部屋にあったので、フライパン・小鍋・皿・カップ・スプーン・フォーク・お箸・布巾などを近くのウォールマートで手に入れた。ついでに若干の野菜や果物も手に入れ、当面の自炊生活の用意が整った。

9月13日(月)。初登校。

少々緊張して教室に入ると、既に全員が揃っていた。私の顔を見るなり、「ニハオ」の合唱とともに笑顔で迎え入れてくれた。それは、私があること知っていて、「待っていましたよ」と言っているような笑顔だった。この瞬間、なんとかかやっていけそうな気がした。(以下、次号に続く)



雲南師範大学国際漢語教育学院の入り口。この2階の216号室がホームルーム。大学のキャンパスは日本と同じで、学生で賑やかだ。唯一違うのは、芝生の上や木陰で熱心に本を読んでいる学生が多いことだ。40年ぶりの学生生活は刺激に溢れている。

昆明のバス事情



通学や買い物に市営バスを活用している。バスに乗ると昆明人になったような気がする。昆明市内の道路は、朝夕、自動車と電気バイクと歩行者が入り交った大ラッシュアワーと化す。通常ならば15分で行けるところがラッシュアワーにかかると40分は当たり前の事態となる。資産階級が増え自家用車が増える中で、庶民の足はもっぱら路線バスである。東西南北に数百の路線が通っていて、どの路線も1回の乗車賃は1元か2元(日本円に換算すると13円か26円)。信じられないほどの安さである。安くて便利ではあるが、市民のマナーははなはだよろしくない。先を争って乗車する風景を随所で見える。「整列乗車」などない。その一方で、車内では老人に席を譲る光景を何度も目にした。不肖私も何度か席を譲ってもらった。老人に優しい昆明市民である。